

人権さんだ

1 月号

令和 8 年 (2026)

No. 562

手話は言語って知っていますか

《問い合わせ》
健康福祉部 人権共生推進課
TEL : 559-5148 FAX : 563-7776
E-mail : jinken_u@city.sanda.lg.jp

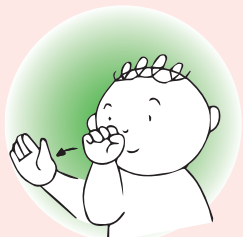


この手話表現は
なあに？
(答えは3ページ)

毎年9月23日「手話言語の国際デー」「手話の日」に
世界や日本各地で手話言語の認知と理解啓発のため、
ブルーライトアップを実施しています。



令和 7 年 9 月 23 日 三田市役所ブルーライトアップの様子



「よろしくお願いします」

手話は言語

平成18（2006）年、国連総会で障害者権利条約が採択され、手話が「言語」として認められました。日本でも平成23（2011）年、障害者基本法の改正によって手話が言語として明記されました。三田市では平成29（2017）年に「三田市みんなの手話言語条例」を施行し、手話言語の啓発・普及に努めています。

昨年は手話施策推進法が施行され、9月23日が「手話の日」と定められました。また、手話言語の国際デーとしてブルーライトアップの取り組みがあり、三田市役所も青く輝きました。

11月には日本で初めて聴覚障害者の国際スポーツ大会「東京2025デフレインピック」が開催され、世界各国のきこえない、きこえにくいアスリートが活躍しました。アスリートへの応援スタイルとして手話言語をもとに、目で伝わる応援「サインメール」が創られるなど、まさに「手話言語の年」になりました。

今号では、手話言語や、ろう者（日常的に手話を第一言語として会話をする人）とのコミュニケーションについて、三田聴覚障害者協会のみなさんに教えていただいた内容をお届けします。



「さんだ手話チャンネル」



「三田市みんなの手話言語条例」

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

日本の手話の歴史をたどってみよう

明治

手話の誕生

1878(明治11)年 京都盲啞院開校。
古河太四郎先生はろうの子どもたちに手話で教育をはじめました。



古河 太四郎さん

大正

手話の発展

1915(大正4)年 日本聾啞協会結成。
ろう学校を卒業して大人になっても、ろう者は手話で話せる場を求めて集まりました。ろう者同士で話す中で、手話単語が増え、発展しました。



昭和

ろうあ運動と手話の広がり

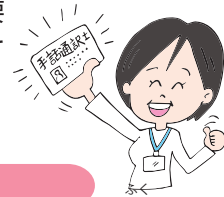
1969(昭和44)年 「標準手話」のテキスト発行
ろう者たちは、車の運転免許が取れない、手話通訳が保障されないなど、さまざまな差別に対し辛抱強くたたかいました。



平成

手話通訳制度の整備

1989(平成元年)年 手話通訳士試験開始
2001(平成13)年 手話通訳者全国統一試験開始
ボランティアとされていた手話通訳は、手話通訳者として役所や団体に雇用されたり、必要な時に派遣される制度ができ、仕事として確立してきました。
手話通訳の試験も全国的に始まりました。



手話が言語と認められる

2006(平成18)年 障害者権利条約採択
2011(平成23)年 障害者基本法改正(「言語(手話を含む)」と明記)世界の条約や日本の法律の中で、手話が言語として認められました。
2017(平成29)年 三田市みんなの手話言語条例施行
2025(令和7)年 手話施策推進法施行、9月23日が「手話の日」と定められました。
日本で初めて東京2025デフリンピックが開催
手話言語をもとに創られた『サインエール』での応援がありました。

令和

手話で話せる人は増えましたか？

手話で話せる人が増えたという実感はありません。でも、手話で応対してくれる店員さんのいる店やあいさつを手話でする人など手話が少し広がっているのかなと感じています。
また手話を知らない店員さんが、飲み物のサイズを聞くのにカップの実物を見せながら聞いてくれたのは、わかりやすくてうれしかったです。

コミュニケーションボードを準備しているお店もありますが、ボードを使わなくても、「はい」「いいえ」などの簡単なやり取りはジェスチャーで通じます。目と目を合わせて、コミュニケーションしてもらえると、話しているという実感がありません。



「うれしい、楽しい」



「ありがとう」



三田聴覚障害者協会のみなさん

手話は全国共通ですか？

もし手話を知らなくても、ジェスチャーで伝えられることはあります。さらに口形や表情をつけるとより伝わりやすくなります。特に表情が豊かだと、私たちに伝わりやすくなります。

日本語に方言があるように、手話にも方言があり、地域によって手話表現が違う言葉があります。

また、ろう学校ごとに手話表現が違う言葉もあります。昭和40年代ごろまで、ろう学校では口話教育が中心でした。学校の中では手話が禁止され、手話で話しているのが見つかったら叱られるため、子どもたちは隠れて手話で会話をしながら、先輩から後輩に手話を引き継いできたので、ろう学校ごとに異なる手話表現が生まれました。

現在では、標準手話がありますが、会話の中で知らない手話表現を見た時は、「その表現は何？」とたずねます。地域やろう学校ごとに異なる手話表現も魅力的です。

手話言語の魅力について教えてください！

手話はろう者の大切な母語（第一言語）です。「目で聴くテレビ」という聴覚障害者向けの放送があります。番組には、手話と字幕があり、私は手話を見て番組を楽しみます。なぜなら、手話の方が自然に情報も入るし、音声言語に声のトーンがあるのと同じように、手話言語にも強弱や表情などで気持ちも自然に伝わるので、内容を楽しむことができますからです。

手話は、自分と仲間をつないできた「言語」であり、手話を大切に守ってきたろう者にとっては「いのち」と同じ大切な「ことば」です。

みなさんへ伝えたいこと

手話はろう者にとって、とても大切な言語です。母語として手話を使っている私たちは、誇りをもって活動しています。

みなさんにはぜひ、お互いに目と目を合わせて、ろう者とコミュニケーションをとってほしいと思います。そして、手話言語に関心を持ってほしいです。誰もが手話で話せる街になり、手話で集える場所ができればうれしいですね。

手話にはたくさんの方の表現がありますが、もし手話を知らなくても、目と目を合わせて、身振りや表情、そして「伝えたい」という気持ちが大切です。ろう者とのコミュニケーションに、まずはあいさつから始めてみませんか。

まずは、あいさつからはじめよう！

「おはよう」 「こんにちは」 「こんばんは」

表紙の手話(答え)

三田市

三田手話のつどい
いつでもどこでもだれとでも
～ 手話でつながる三田へ ～

日時：令和8年3月1日(日)13時～
場所：ウディタウン市民センター
内容：講演会・手話で交流

これまで「耳の日のつどい」を開催してきましたが、言語と文化の多様性、使用母語の尊重の目的に沿って、令和8年からは、「三田手話のつどい」を国際母語デーに合わせて開催する予定です。

編集後記

「三田市みんなの手話言語条例」ができてから、市では手話教室の開催など、手話の普及に取り組んできました。また、三田市立図書館では、手話に関する本の分類を「福祉」から「言語」へ変更しました。手話が言語だという考え方を実践しています。

手話は言語ということを理解し、お互いに思いを伝えあうことが、共生社会の実現に向けて大切です。

令和7年度
人権ポスター・標語受賞作品

しあわせの形は

自分で決める

すずかけ台小学校6年
金子 藍さん

ホントのココロ
見えないからこそ
見る努力

八景中学校1年
玉田 樹輝さん

くらしの人権相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜～金曜 9時～17時（※祝日・年末年始を除く）

専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談（予約制）

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜～金曜 9時～17時（※祝日・年末年始を除く）
※専門相談員との相談日は予約後に調整

人権擁護委員による定例人権相談（予約制）

TEL 559-5148 FAX 563-7776
《次回相談日》1月22日(木) 13時～16時

「大じななかま」



三田小学校2年
藤原 壮真さん

子どもたちからの

メッセージ

今号から、市内の小中学生・中学生・高校生が書いた人権作文を掲載します。12月6日（土）に三田市総合文化センター（郷の音ホール）で開催された「人権と共生社会を考える市民のつどい」において発表された作文です。

「友達から親友へ」

三田小学校6年

山本 煌さん

ぼくには、「親友」がいます。幼稚園の時に会いました。はじめは「友達」でしたが、ある時から僕にとって「親友」に変わりました。そんな「親友」ですが、はじめは自分から話すこともできませんでした。

コロナウイルスの感染が広がっている時期に僕は小学校に入学しました。小学校に入学しても自宅待機が始まり、登校せずに自宅でプリント学習などが始まりました。友達と遊ぶこともできなくて、幼稚園で仲良しになった友達は、「どうしているのかなあ。」と考えることも多く、会うことはできなかつたので、楽しくない毎日を過ごしていました。

休校が終わり、学校に通えるようになると、幼稚園で仲良しだった友達とは別のクラスになり、僕は初めて見る人ばかりのクラスになりました。もともと、自分から声をかけることが苦手でした。だから、自分から声をかけて仲良くなることも難しく、休み時間には一人で過ごすことも多かったです。違うクラスの前を通ると仲良しだった友達の顔を見ることがあり、「また、

一緒に遊べるかなあ。」と、心配ばかりしていました。二年生になっても、幼稚園で仲良かった友達とは一緒になれませんでした。

三年生のときに、その友達と一緒にのクラスになりましたが、久しぶりであり声をかけられませんでした。「今までと変わらさず、ずっとこのままなのかなあ。」と不安でした。

ある日、その友達が「一緒に帰ろう。」

と、声をかけてくれたことがきっかけで、一緒に帰るようになりました。終わる時間が違うときも、校舎の靴箱のところで待ち合わせをして一緒に帰るまでになりました。

その友達と帰る途中で知らない子に石を投げつけられることがありました。突然のことに僕は何も言えずにかたまっていました。その時に、その友達は、相手に注意してくれて僕を助けてくれました。

このことがあってから、僕にとって、その友達が「親友」になりました。

小学校に入学してからずっと違うクラスだったのに、僕に声をかけてくれたことや、僕に寄り添ってくれたことがとてもうれしくて、親友がいてくれるということをこ

れほどありがたく思えたことはありません。

その「親友」を通して、多くのことに僕は気づかされました。「人にやさしく」とか、「思いやりを持って」とか言われることも聞くことも多いけれど、僕は何をやらなければならないかがよく分かりませんでした。「やさしさ」や「思いやり」は、人によって感じ方も違うと思います。全ての人に思いやりを持ってやさしく接することはできないかもしれませんが、だけど、どんな時も僕に寄り添ってくれた友達のように、「寄り添うこと」が始まりのよう気がします。

僕たちはまもなく小学校を卒業し、それぞれの目標に向かって進み、成長していきます。もしかしたら、これからは進む道は、親友と違うかもしれない。それでも、ずっと親友でいたい。お互いに寄り添っていきながら、尊敬できる仲間でありたいです。そして、友達が僕に寄り添ってくれたように、今度は僕も他の友達に寄り添っていきける人になりたいと思います。